



比嘉明男

一般社団法人沖縄やんばるDMO特別参与理事
一般社団法人国頭村観光協会会長

やんばるの 未来を拓く

「世界自然遺産と
持続可能な観光への挑戦」

沖縄最北端 ©国頭村観光協会

やんばるの川

1 やんばるの魅力

国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がる国頭・大宜味・東の3村にまたがるエリアは、2016年9月15日に全国33番目の国立公園として環境省より指定を受けました。さらに2021年7月26日には、奄美大島、徳之島、沖縄本島北部及び西表島が世界自然遺産に登録されました。学術的に価値の高い地形や希少な生態系、豊かな生物多様性が認められたことによる登録で、日本では5番目となります。今年には国立公園指定10周年、世界自然遺産登録5周年という、大切な節目の年を迎えています。

私の住む安田集落はそのエリアに位置し、世界でここにしか生息しないヤンバルクイナやノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネなど4,500種を超えるといわれる貴重な動植物が息づいています。ヤンバルクイナは1981年に新種として発見された全長約30センチの「飛べない鳥」で、1985年の調査では約1,800羽の生息が確認されていました。しかし、マングースや野生化した飼い猫などによる捕食により生息数が急減し、2005年には700羽まで激減、絶滅が危ぶまれました。

こうした状況を受け、2002年に安田区ではヤンバルクイナの絶滅を防ぐという機運が高まりました。「自然との共生と地域資源の保護と活用」をコンセプトに掲げ、地道な取り組みが始まりました。当時、区民の中には「ヤンバルクイナを守ってメシが食えるか」という声もありましたが、粘り強く活動を続け、2002年には全国初となる「安田区ネコ飼養に関する規則」を制定しました。この取り組みは国頭村をはじめ奄美や全国へと広がっていきま

した。2005年には長嶺先生（NPO法人どうぶつたちの病院沖縄理事）が「ヤンバルクイナ救急救命センター」を安田区に開設され、区は元幼稚園の施設を無償で提供しました。安田小学校の子どもたちもヤンバルクイナへの給餌活動に取り組み、2007年には「環境大臣賞」を受賞しました。子どもたちの積極的な参加が区民の意識を変え、自然環境に関するさまざまな取り組みへと発展しました。こうした安田区の活動は高く評価され、2005年「明日への環境賞」（朝日新聞社）、2012年「うちなー地域づくり大



ヤンバルデナガコガネ



ヤンバルクイナは
1981年に新種として発見された
©国頭村観光協会



コノハチョウ



オキナワイボイモリ

やんばるに生息する生き物



幻のカエル
オキナワイシカワガエル
©国頭村観光協会



ノグチゲラ



リュウキュウヤマガメ



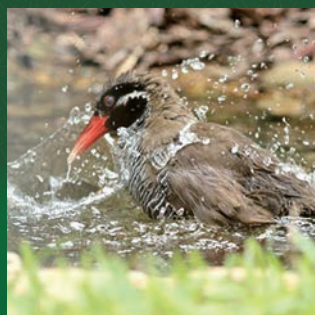
アカショウビン

賞「沖縄県奨励賞」を受賞しました。

国頭村においても、当時の上原康作村長がヤンバルクイナを保護するシェルター設置の予算として約6,000万円を議会に提案しました。一部の議員や村民からは予算の無駄遣いとの声も上がりましたが、上原村長が丁寧に議員の皆さんの理解を得た結果、2006年3月26日、安田エリアに「ヤンバルクイナ保護シェルター」が設置されました。広さ13万7,000平方メートル、高さ約2.7メートルのフェンスで囲まれたこのシェルターは、マングースや野生化したネコなどからの捕食を防ぎ、ヤンバルクイナの保護と生態研究を目的としたものです。

懸命に張り続けました。この様子はマスコミに大きく報道され、世論の強い後押しを受けて国や県の動きも一気に加速しました。その後、マングース対策として北上防止柵（SFライン）が設置され、2010年には環境省が「ヤンバルクイナ飼育繁殖施設」を安田エリアに設置しました。

安田区や国頭村が長年にわたり積み重ねてきた地道な取り組みが、2021年7月26日の世界自然遺産登録への礎となったと、私は確信しております。



食後の水浴び
©国頭村観光協会

比嘉 明男

一般社団法人
国頭村観光協会会長



1953年沖縄県国頭村生まれ。1974年国頭郵便局に入社。国頭村および東村の郵便局長を歴任し、地域に根ざした郵便事業に長年携わる。2018年から2年9か月にわたり、沖縄県出身者として初となる日本郵便沖縄支社長を務める。

退職後は、国頭村観光協会会長に就任。世界自然遺産に登録された「やんばる」の豊かな自然環境を守りながら、地域資源を生かした観光振興と国頭村の活性化に取り組んでいる。

また、やんばるDMO特別参与理事として、国頭村をはじめ離島を含む沖縄本島北部地域の観光産業の振興にも尽力。地域の自然、文化、人の魅力を生かし持続可能な観光地域づくりを目指して活動している。

やんばるの魅力



©アズムイハイクス



ガジユマル

DMOとは？

Destination
Management/Marketing
Organization

地域の多様な関係者と協働し、
科学的アプローチを取り入れた
観光地域づくりの司令塔となる法人

●沖縄やんばる DMO の設立については
「群星 2026 年 5・6 月号」をご覧ください。

一般社団法人 沖縄やんばる DMO
構成 12 市町村

- 名護市
- 大宜味村
- 今帰仁村
- 恩納村
- 金武町
- 伊平屋村
- 国頭村
- 東村
- 本部町
- 宜野座村
- 伊江村
- 伊是名村



2 沖縄やんばる DMO の設立と役割

やんばる（山原）とは、「山々が連

なり、鬱蒼とした常緑広葉樹の森が
広がる地域」を意味し、3 離島（伊
江島、伊是名島、伊平屋島）も含め
た沖縄本島北部地域 12 市町村（南は
金武町・恩納村から北は国頭村まで）
のことをいいます。私が若い頃は「や

んばらー（田舎者）」とよく揶揄され
たのですが、時が経った今や「や
んばる」は世界自然遺産のエリアを
中心に沖縄観光の目玉として多くの
施設が生まれ、注目度が高まってい
ます。

『沖縄やんばる DMO』（以下、や
んばる DMO）は、北部 12 市町村に
おける素通り観光の解消や宿泊日数
の増加、周遊促進などの広域的な課
題解決に向け、10 年をかけて設立が
検討されてきました。その目的は、
『やんばる地域の自然・文化・住民
生活と調和した持続可能な観光地域
づくりを推進することにより、観光
を通じてやんばる地域の本質的価値
を世界へ提供し、地域の所得と幸福
度及び観光客の満足度の向上を図る
とともに、経済効果の最大化と環境
負荷の最小化を両立させ、地域と来
訪者が共に幸せを分かち合う豊かな
未来の実現に寄与すること』と定め
られています。またそのパーパスは、

『やんばるの奇跡的な自然と、そこ
で育まれた文化、つまり「生命の輝
き」を守り、未来へ継承する。そし
て、その価値を地域経済の力に変え、
一過性ではない「持続可能な豊かさ」
を実現し、「保護」と「振興」の二項
対立を乗り越えること』にあります。

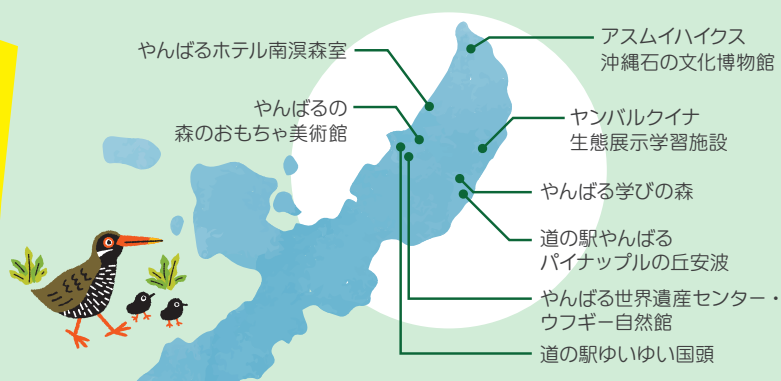
これこそが、やんばる DMO の存在
意義といえるでしょう。そのパーパ
スを具現化するために、次の 2 点を
提案したいと思います。

1 つ目は、二次交通のインフラ整
備です。近年、車を運転せずにバス
などを利用する観光客が増えてお
り、特に欧米からの旅行者の間では
バスを利用して何日もかけて旅を楽
しむスタイルが広がっています。現
在、那覇空港から名護市内を経由し
て本部町・今帰仁村へ向かうシャト
ルバスが毎日数十便運行されていま
す。これを名護漁港内にアクセスさ
せ、そこから北部各エリアへと移動
できる二次交通の仕組みを整えるこ
とで、各市町村での周遊を促進し、
車を持たない方でもやんばるの観光
を存分に楽しめる環境が実現します。

2 つ目は、高速通信インフラの整
備です。現代は SNS の時代であり、



自然環境を生かした 魅力溢れる施設



観光地を訪れる多くの方がスマートフォンで撮影し、映像を友人・知人と共有しています。SNSは今やテレビコマーシャルをしのぐ影響力を持っています。やんばるの地域には素晴らしい伝統芸能や食文化が数多く存在します。これらを観光コンテンツとして磨き上げ、発信力を強化するとともに、各地域が連携して**滞在型観光**を推進し、宿泊日数の増加を目指すことが重要です。

今年は「やんばる国立公園」指定10周年、世界自然遺産登録5周年の節目の年です。国頭村には、自然とつながる暮らしに新たな価値を見いだす美しい集落・謝敷に、文化・自然・人との触れ合いをコンセプトとする「**やんばるホテル南浜森室**」があります。辺戸岬方面には、古くから聖なる地として伝えられてきた安須森の山中を歩ける施設「アスミハイクス」があり、沖縄の島々の岩石から成り立ちの歴史を学ぶ「**沖縄石の文化博物館**」が設けられています。太平洋側の東ラインにはヤンバルクイナを観察できる「**ヤンバルクイナ生態展示学習施設**」があり、人と自然のつながりを体験プログラムを通じて楽しく学べる「**やんばる学びの森**」もあります。今年3月には

国頭村森林公園内に「**やんばるの森のおもちゃ美術館**」が、7月には「**やんばる世界遺産センター・ウフギー自然館**」がそれぞれリニューアルオープンしました。地域の特産品売り場としては、国頭村の入り口に「**道の駅ゆいゆい国頭**」、東ラインには太平洋とやんばるの丘を望む「**道の駅やんばるパイナップルの丘安波**」があります。国頭村には自然環境を生かした魅力あふれる施設が充実しており、沖縄県の奥座敷であるこの地に人の流れを生み出すことが、沖縄県観光の発展につながるものと確信しています。

沖縄観光を「量から質へ」と転換し、訪れる方々に安心してゆっくりと楽しんでいただくためには、二次交通及び高速通信インフラの整備が急務であり、国・県及び各自治体にとっての大きなテーマといえます。「沖縄やんばるDMO」は、表面的な観光ではなく、やんばるの自然の奥深さや文化の豊かさに触れる本物の体験を提供し、「脆弱な受け入れ環境」を改善することで、質の高いおもてなしにより旅行者が生涯忘れられない思い出を持ち帰る未来をビジョンとして、今まさに産声を上げるところです。